ある 晴れた 夏の 日の こと。
仲良しの バークと スティーブは、
夏休みを いっしょに 過ごそうと、
スティーブの おじさんの 所に
行きました。ハーバートおじさんは、
いなかで 小さな 農場を 営んで
います。

スティーブは、毎年 夏休みに
なると、2 週間ほどを おじさんの
所で 過ごし、農場の 仕事を
手伝います。今年は、友だちの
バークも いっしょです。

ハーバートおじさんが納屋で動物たちを世話していると、バークと スティーブがやって来ました。「おはよう、お二人さん。早速だが、今朝は君たち二人で乳しぼりができると思うかい?」と おじさん。

「お任せを!」 熱心そうに答えながら、バークは もう牛小屋へ向かって走り出しています。

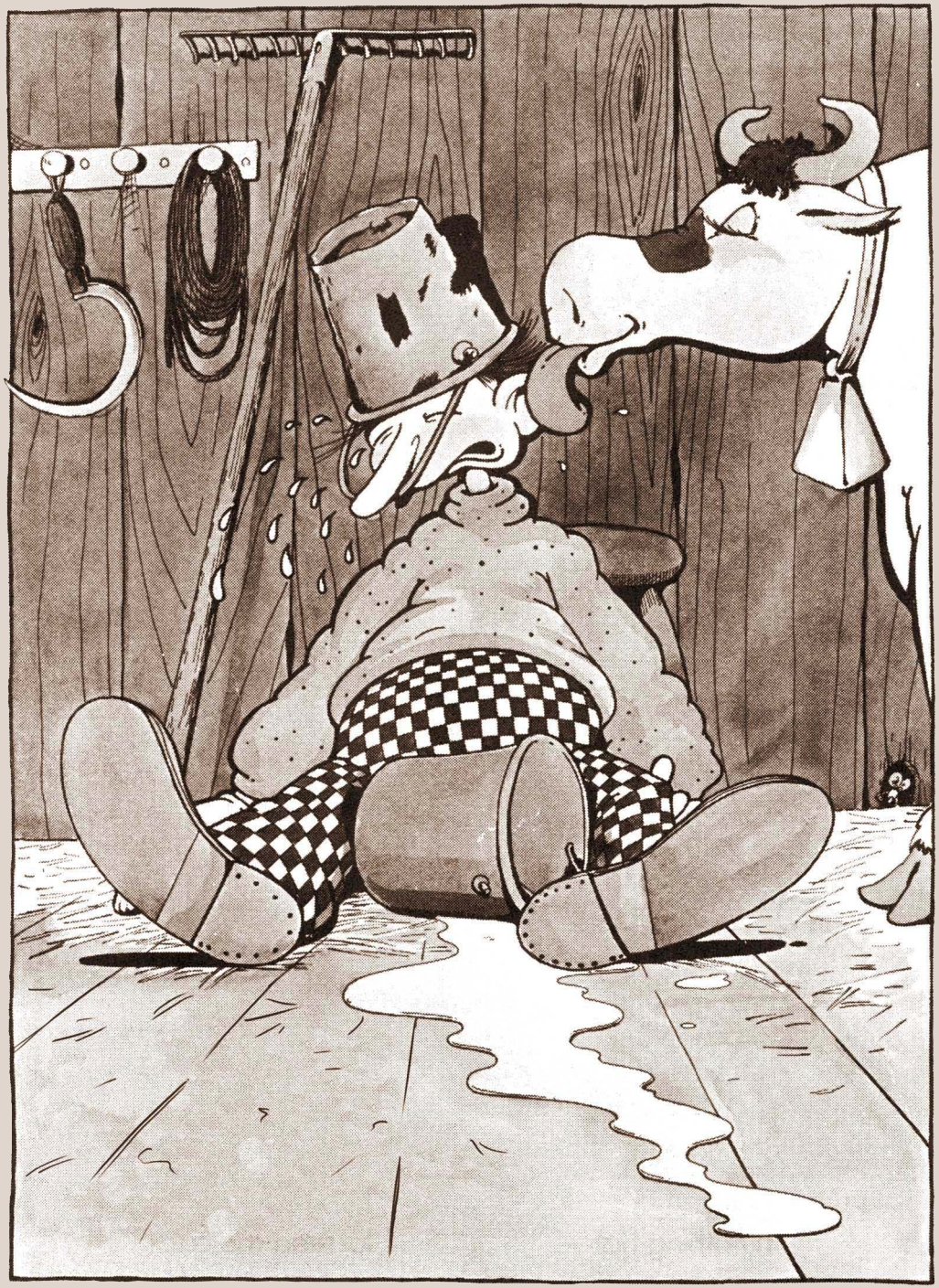
「そう あわてるな、バーク。」 ハーバートおじさんは大声で よびながら、スティーブといっしょに バークの後に続きました。

め牛の ベシーの所に来ると、バケツといすが出ていたので、バークは もう乳しぼりを始める準備が できていました。

「では、乳の しぼり方を見せてあげよう。」と、ハーバートおじさんが言いました。

「ぼく、一人で できるよ。」 ベシーの乳を しぼろうと しながら、バークが答えました。けれども、バークは自分が何を しているのか、分かっていません。

「モーーーーー！」　バークは、
うっかり ベシーの 足に バケツを
ぶつけてしまいました。
　バークが どんなに 一生 けん命
め牛の 乳首を しぼっても 引っ張っても、
お乳は 出てきません。何度も 何度も
やって、ついに お乳は 出てきましたが、
そのころには もう、バークの ほうが
あきてしまいました。（め牛の 乳しぼり
なんて、時間が かかり過ぎるよ。）と
バークは 思いました。（何か ほかの
ことが できるように、できるだけ 速く
すませちゃおう。）
　バークは、もっと 速く 乳しぼりが
終わるようにと、急いで 乳首を
ぐいぐいと 引っ張りました。けれども、
お乳は バケツに 入らずに、地面の
あちこちに 飛び散ってしまいました。
どうした ものか、バークは お乳を
ハーバートおじさんの 顔にまで、
ピシャッと 飛ばしてしまったくらいです！



バークが 「もう お終い」にした 時、
バケツには まだ、4分の1ほども
入っていませんでした。あわてて
立ち上がったため、うっかり バケツを
けって ひっくり返してしまいました。
お乳は またもや、そこらじゅうに
こぼれてしまいました。バークは、
何もかも めちゃくちゃに して
しまったのです！

「ウェーンウェーン！」 バークは
泣きべそを かきました。「乳しぼり
なんて、時間が かかり過ぎるし、
むずかし過ぎて、ぼくには ぜったいに
うまくなんか、できっこ ないよ！」

ベシーは 低い 声で モーと 鳴いて、
バークの 顔を ペロッと なめました。
それで、バークは ますます 泣きじゃくり
ました。

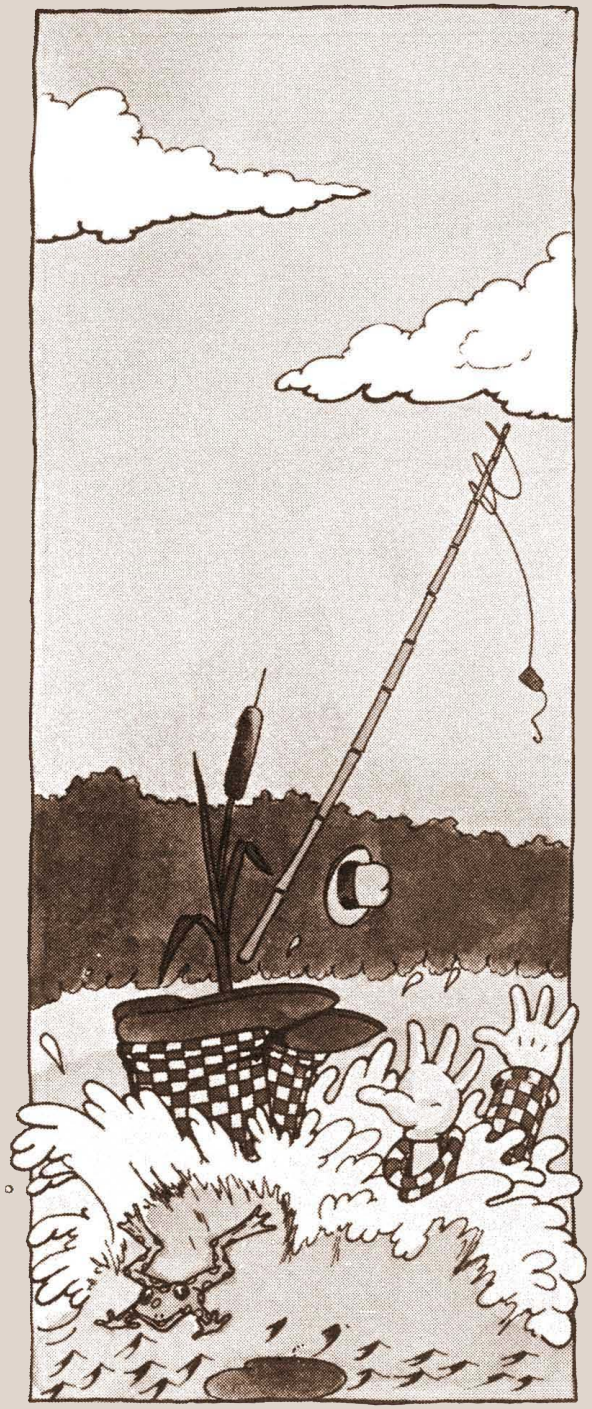
「やり方を教えてあげるよ。」
そう言うと、スティーブが ベシーの
そばの いすに ゆっくりと 腰を
下ろしました。スティーブは
注意深く バケツを め牛の 乳房の
下に 置くと、しんぼう強く 乳を
しぼり始めました。
　まもなく、バケツは 牛乳で
いっぱいに なりました。ネコの
レジーナに あげられるくらい、
たくさん ありました。

「でかしたぞ！」　スティーブが
牛乳の入った バケツを ハーバート
おじさんの所へ持っていくと、
おじさんが 言いました。「落ち着いて、
確実に やることじゃの。物事を 正しく
やるには、時間と しんぼう強さが
いるものじゃ。」
「どうして、しんぼう強さが
大切なの？」　バークが ききました。
「ぼくは、手っ取り早く やるのが
好きなんだ。そうすれば、毎日 もっと
たくさんの ことが できるもの。」
「気長に やれば、物事が 起こるのを
待つのも、もっと 楽に なるぞ。」と、
ハーバートおじさん。「ほとんど
すべての ことには、時間が かかるものだ。
自分の 番を 待つのにも、仕事を
終わらせるのにも、新しい ことを
学ぶのにもな。好きな ことを するのに
だって、時間が かかるだろう？」

「いつも いつも 急いでばかりいて、
すべき ことを 手っ取り早く 片付けていたら、
結局は もっと 時間が かかってしまう ことも
よく あるんだぞ。前に もどって、まちがって
やった ことを やり直さなければ ならなく
なるからな。それで 思い出したんだが、
わしも ある時、しんぼう強く 気長に やると
いう 教訓を 学んだんじゃ。」

「何が 起こったの?」バークが ききました。

「そうじゃな、あれは、わしが 若かった
ころの 話だ。魚が 一番 つれそうな 場所を
さがしながら 川沿いを 歩いていたら、
反対側に 良い 場所が あるのを 見つけてな。
川の 中から つき出ていた 岩の 上を 転々と
またいで 渡ろうと 決めたのじゃ。そうすれば、
橋を 渡るのに 下流 まで 行く 時間が
省けるからな。だが、わしが「岩」だと 思った
ものの 一つは、実は、カメだったのじゃ。



それで、わしが カメの 上に
どっこいしょと 体重を かけた 時、カメは
それが 気に くわなかったんだな。わしは、
バッシャーンと 水の 中に まっさかさまに
はまって、ずぶぬれじゃ。」

そう 言いながら、ハーバートおじさんは
クスクスと 笑いました。「橋は、大して
はなれていた わけでも なかったから、
ちょっと 歩いていれば、魚つりの 日を
台無しに し、ずぶぬれで、ひどく ふきげんな
まま 家に 帰らないで すんだと いうのに、
わしは せっかちで、すぐにでも 魚つりを
始めたかったんじゃよ。」

「だけど、ゆっくり やるのは
たいくつだよ！」と バーク。
「必ずしも そうとは 限らないぞ。
農夫は 畑仕事を していく 上で、
しんぼう強さについて、たっぷり
学ぶものじゃ。作物が 成長 するには
時間が かかるし、木が 実を 実らせたり、
家畜が 子どもを 産むのにも、時間が
かかるからのう。農夫が 作物を 植えて、
その後 ジタバタしながら、麦や
とうもろこしの 苗に 向かって、速く
大きくなれって さけんだり わめいたり
するのは、おろかと いうものじゃ。
作物なんかは、成長 するのに 時間が
かかる。農夫は それを、自分の 仕事の
一部として 受け入れなきゃ ならんのだ。
そうすれば、時間が かかると 言って
いらいらしないで すむからな。」

ハーバートおじさんは、バークの 背中を ポンと たたいて 言いました。「気長に やれば、ほかに 何が できるか 気を もまなくて すむし、その 時々に やっている ことを 楽しんだり 感謝できる ように なるんじゃ。今年の 夏は この農場 で、少しばかり 時間の かかる いろいろな 物事の 大切さを 学びなされ。きっと、新しく すばらしい ことを 発見できるじゃろう。」

そして、バークは 正に そう したのでした。何かについて せっかちに 感じるたびに、周りを 見渡し、いろいろなことについて ちょっと 考えて みたのです。物事は どうして そのように なるのかとか、動物は どうして これや あれやの ことを するのかなどです。さらには、空に 浮かぶ ふわふわした 雲や、畑の 作物を ただ 単に ながめたりも しました。

その夏、バークは すばらしい ことを たくさん 発見しました。物事を 少し ゆっくり やり、気長に なって、周りの 物事の 大切さを 考えて みただけで、いろいろな 発見が できたのです。

神様は、1本1本の 木や、小さな あかちゃんを
造るのに、時間を かけられる。ちっぽけな
マルハナバチを 造るのにさえ、時間を かけられる。
わたしたちが 見て、自分たちが どう あるべきかを
学べるように、それらが ゆっくり、ゆっくりと
成 長 するように、神様は 造られた。

創造主の 中の 創造主である 神様は、花や、
木々や、葉っぱを、ゆっくりと 成 長 させて
くださる。神様は、創造物が ゆっくりと
成 長 するのを 見るのが お好きなのだ。神様は、
物事に 時間を かけられる ことを、わたしは
知っている。

—シア・ギユーダの 著作物の 改作

文：デヴォン・T・ソマーズ、デービッド・B・バーグの著書からの編集
絵：バルコス・ドゥードラー　デザイン：クリスティア・コープランド
出版：マイ・ワンダー・スタジオ　Copyright © 2012年、
ファミリーインターナショナル “Have Patience”--Japanese
http://www.mywonderstudio.com/0-5/2012/8/6/presenting-burke-and-steve-in-have-patience.html